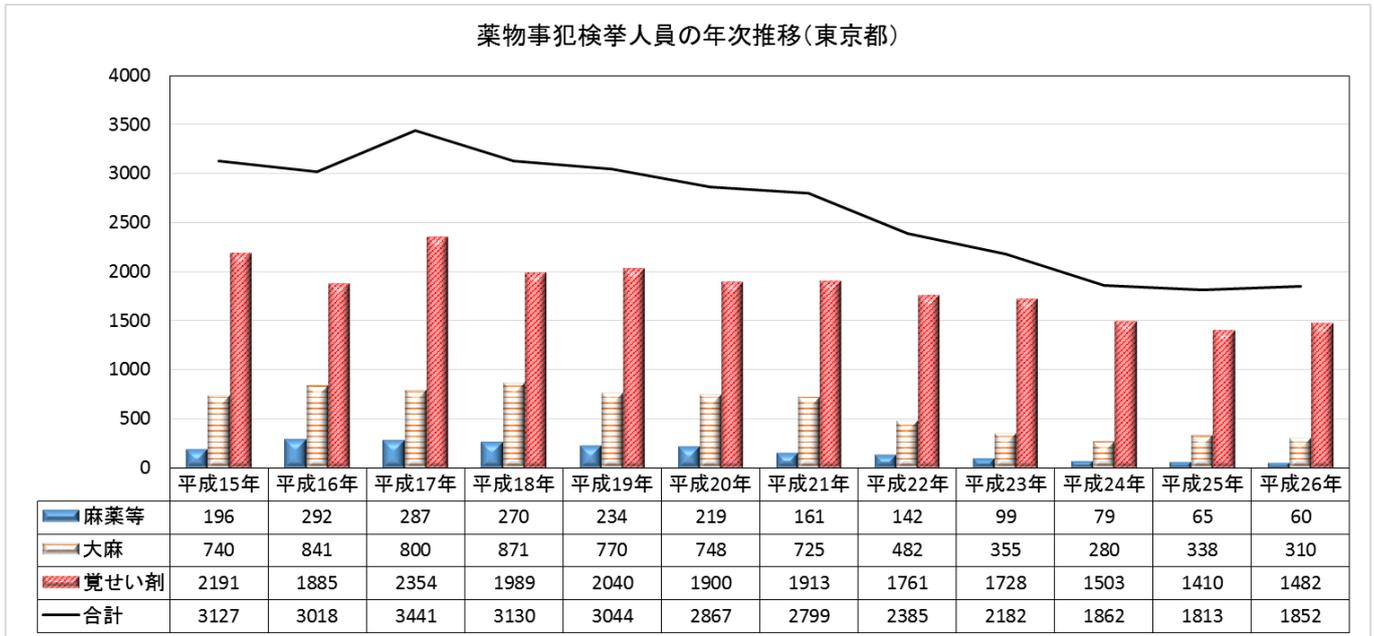


東京都における薬物乱用状況

■麻薬等、大麻及び覚せい剤検挙人員の年次推移

下のグラフは平成15年以降の薬物事犯検挙人員の年次推移を示したもので、近年減少傾向にあったが、平成26年に若干増加に転じた。これは、インターネットや携帯電話の普及により、薬物の取引が巧妙化・顕在化したためと考えられる。内訳を見ると、覚せい剤が乱用薬物全体の約80%、大麻が約17%を占めている。



■覚せい剤の乱用状況

全体の約8割を占め、国内においては最も乱用されている薬物である。

検挙人員の年齢別構成

19才以下	3
20～29才	189
30才以上	1290

※平成26年

学生の検挙状況

	22年	23年	24年	25年	26年
中学生	2	1	0	0	0
高校生	4	2	1	1	1
大学生	8	4	4	3	4
各種学校	3	4	3	3	4

■大麻の乱用状況

平成18年以降減少していたが、平成26年には増加に転じた。

検挙人員の年齢別構成

19才以下	14
20～29才	96
30才以上	200

学生の検挙状況

	22年	23年	24年	25年	26年
中学生	1	0	0	0	1
高校生	2	5	3	3	1
大学生	5	8	4	7	4
各種学校	2	2	1	2	1

※出典：東京都薬物乱用防止活動の手引き（平成27年度版）